

【1-15】

湾・灘の区分	周防灘
取組の名称	海岸事業に関する要望・提案
事業期間及び事業費	事業期間： 2015 年度(平成 27 年度)～2019 年度(平成 31 年度) 事業費： 一般経費の中からの支出で予算化されていない。
事業体制	研究者と県土木事務所との橋渡しを当会が行っている。
事業の背景・目的	浚渫などの影響により砂浜海岸の浸食が進行して、後背地の安全が脅かされるようになってきたことから、安全の確保が必要になった。その際、安易に従来型のコンクリート護岸とするのではなく、希少生物保護及び生物多様性の保全を考慮した多自然型の手法を模索した。
事業場所の詳細	中津市大新田海岸、舞手川河口域。
事業内容	舞手川河口の閉塞を防ぎながら、砂浜海岸の浸食を防ぐために、ネットに自然石を詰めた突堤を設置した。
モニタリング方法(効果・影響の確認方法)	①調査項目 ・生物(カブトガニの産卵状況、カブトガニ幼生生息状況) ・地形(測量・粒度分析) ②調査時期・頻度 夏期大潮時期に数回。地形変化の調査は不定期。 ③調査地点数・調査場所 1ヶ所(中津市大新田海岸舞手川河口域) ④モニタリング方法 ・カブトガニの産卵定点調査(調査者による定点観察) ・カブトガニ幼生生息状況定点調査(調査者による定点観察) ・砂洲の地形変化調査(測量・粒度分析)
取組による効果・影響及びその判断基準等	突堤により砂が海岸部に蓄積されはじめ砂浜の浸食を防ぎ、後背地域の安全が確保できた。同時に絶滅危惧Ⅰ類(環境省)の産卵地を保全することができた。
モニタリング結果の分析及び活用の方法	・分析方法： 定量化された記録を元にした変化の分析 ・活用方法： 効果の確認、環境急変へ対応するための基礎データとして使用
現状での課題	<b>【突堤の施工について】</b> 施工地点が河口域であることもあり突堤の設置場所や高さなど微妙な変更が必要になる。ただ、試行錯誤が容易であり、予算も少額で済む。 <b>【カブトガニの産卵定点調査及びカブトガニ幼生生息状況定点調査について】</b> 調査結果は調査者のスキルへの依存度が高い。出現頻度も必ずしも法則性をつかんでいないため、潮汐、気象条件などにより個体数などの増減が激しい。よって、調査者の養成、標準手法の確立が必要である。 <b>【砂洲の地形変化調査(測量・粒度分析)について】</b> 必ずしも定期的な調査が出来ていないため、何らかの形で継続可能な手法を確立する必要がある。
今後の予定等	継続して協力を続ける。
取組事例についての発表資料等	T. Uda, R. Konishi, S. Tashiro, Y. Ashikaga, and Y. Ooki “Prevention of river-mouth closure using a jetty and recovery of spawning ground of horseshoe crab” Proceedings of the 10 <sup>th</sup> International Conference on Asian and Pacific Coasts (APAC 2019) Hanoi, Vietnam, September 25-28(2019) pp.361-367.
情報提供元	特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会